

# 野洲市教育研究所だより

## 11月号

### 学級づくり・授業づくりの振り返りを

野洲市教育委員会 教育長 川端敏男



平成28年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が、9月末に文科省より公表されました。各小中学校では、今回の調査結果から、児童生徒の「よくできていた点」「課題の見られる点」を分析し、今後、どのような取組を展開するのか明らかにされたことと思います。

教育委員会でも、今回の調査から見てきた本市児童生徒の学力と学習状況に関する結果を市のホームページに掲載しました。

児童生徒質問紙で「学級づくり」「授業づくり」に関する質問項目があります。この中で、少し気になる数値データ(グラフを参照)を示しますので、先生方は、自分の「学級づくり」「授業づくり」を今一度振り返ってください。

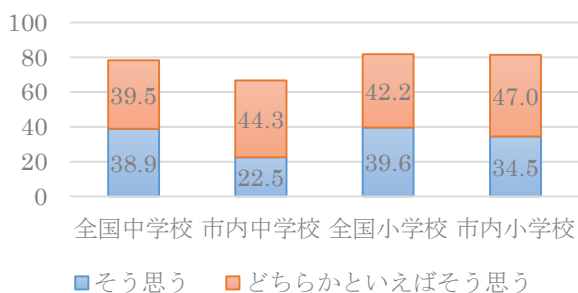
学級づくりは、子どもの「群れ」を「集団」につくり変えていくことです。集団成立の前提は、教師と子ども、子ども同士で学級のきまりを決め、自分も友達も大事にされているという気持ちを持てるようにすることです。親和的な人間関係が確立すると、子ども同士の間に仲間意識が生まれ、活動が協力的、活発

になされ、「やり遂げた」という満足感・充実感が生まれます。

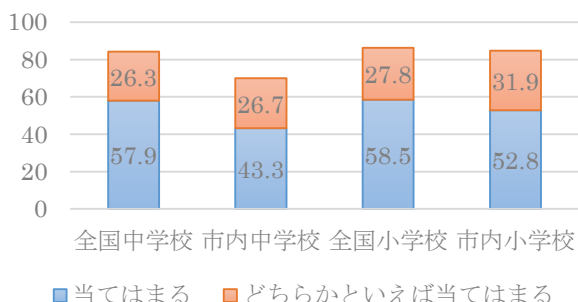
中学校では、生徒の主体性を引き出し、規範意識、自治能力を高め、自らの力で学級文化を創り出すことに力を注いでください。

先生方は、一人ひとりの子どもの様子をしっかりと見て理解し、子どもを勇気づけ、やる気を高めるかわりや言葉かけを行い、子どもたちが「明るく、楽しく、安心でき、めざす共通の目標がある学級だ」と思える学級づくりに、これからも取り組んでほしいと思います。

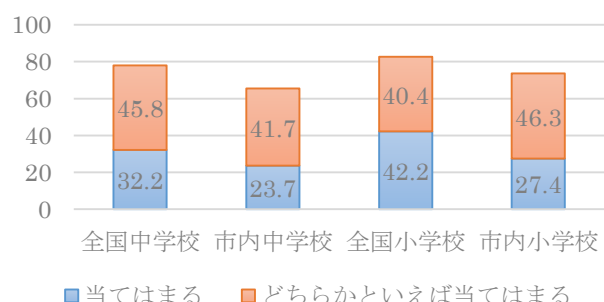
友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思いますか (%)



学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか (%)



先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (%)

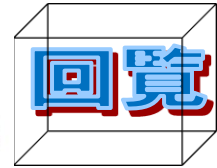


野洲市教育研究所

TEL 077-587-6028

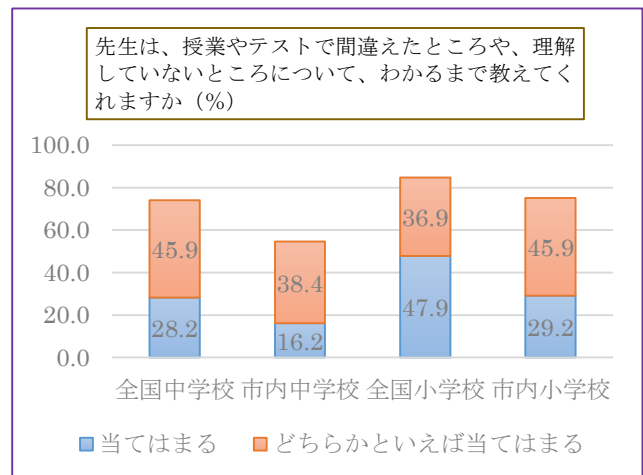
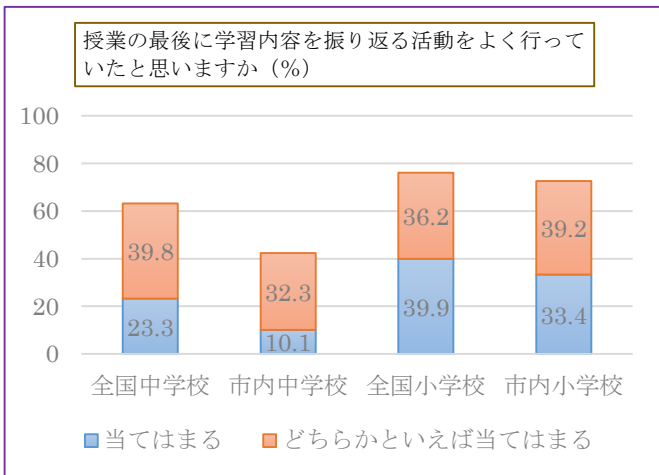
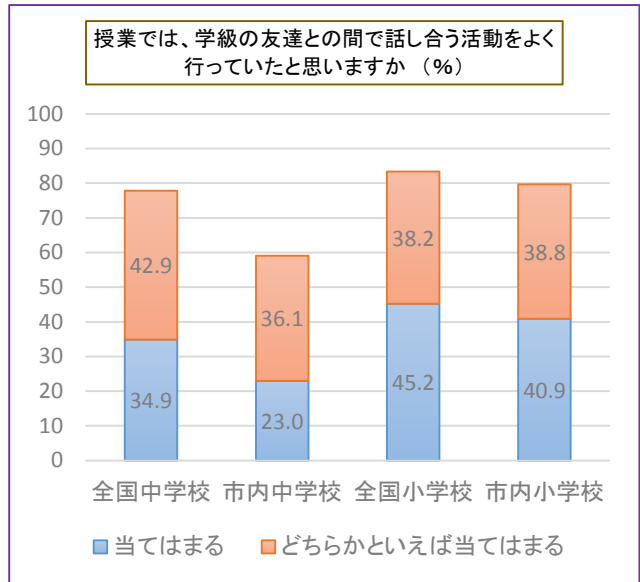
Email kenkyu@city.yasu.lg.jp

第94号 2016.11.10.



授業づくりでは、学習内容に興味を持たせ、学習の目標を示してはいるものの、展開の段階で、それぞれの考えを広げたり、深めたりして、確かなものにするための話し合い活動が十分ではありません。また、授業の最後に、学習内容を整理して、問題が解決したことを確認したり、考えの筋道を整理したりして、授業の成果を確認する点も十分ではありませんでした。

授業では、子どもが教材に主体的にかかわり、一人ひとりに考えを持たせ、互いの考えを交流する「ともに学び合う」時間を確保すること、まとめの段階で板書を活用し、考えてきた過程を振り返ったり、整理したりすることが大事です。授業改善を行い、子どもたちが「できた」「わかった」と満足感が味わえる授業づくりに取り組んでほしいと願っています。



## 冬休みの講座

参加者、募集中です。

### ◇人権教育講座③

場所：市役所別館1階会議室

12月26日(月) 9:30~11:00

講師：学校教育課 西村 健 先生

### ◇野洲市教師育成塾 (XI②)

場所：市役所別館1階会議室

12月26日(月) 13:30~15:30

講師：北野小学校 中野 正俊 先生

### ◇博物館活用講座

場所：銅鐸博物館

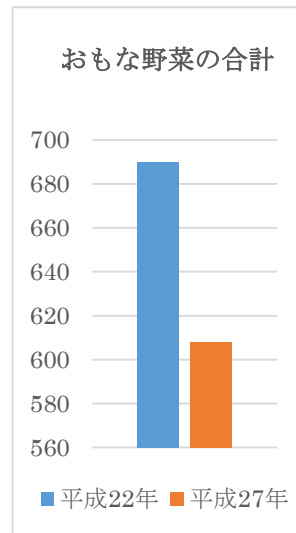
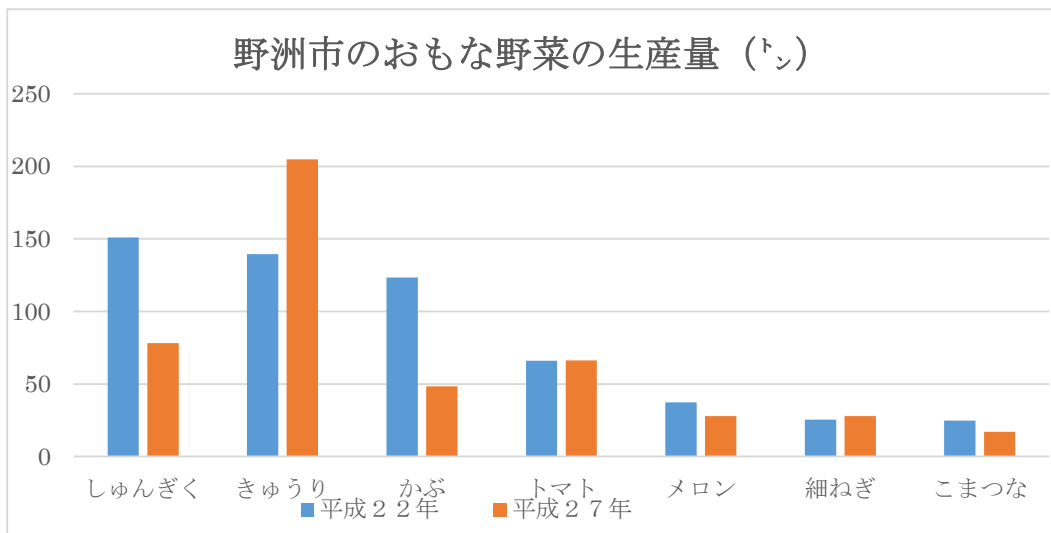
12月27日(火) 10:00~12:00

講師：銅鐸博物館 行俊 勉 副館長

# 調査・研究事業より

## 「社会科地域学習指導の調査研究」

### ーアクティブ・ラーニングの視点を生かした授業改善（野洲小学校3年生）

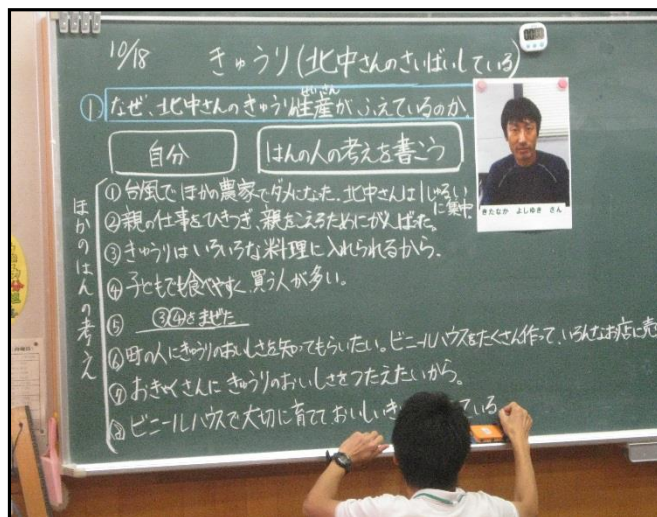


### ★きゅうりの生産が増えているのはどうして？（問いが生まれやすい教材）

これまでの学習や生活体験で知っている情報をもとに、自分で考えたことを班で出し合い、班の人の考えをまとめて発表しました。

「ビニールハウスで大切に育てて、おいしいきゅうりをつくっているから」「きゅうりは子どもでも食べやすく、買う人が多いから」などいろいろな意見が出てきました。

次に気になるのは、野洲でたくさんのきゅうりをつくっておられる北中さんはどのようにしてきゅうりを作っているのか。他のきゅうりにはない「おいしさの秘密があるのか」ということです。



生産者である北中さんのお話（インタビュービデオ）を聞きました。かぼちゃの根ときゅうりを接木して丈夫なきゅうりの木を作る話や、受粉しなくても実がなるという話は理科で「植物を育てよう」という勉強をしている子どもたちにとってはおどろくことがいっぱいありました。

学習を積み上げる中で、いろいろな「疑問」が子どもたちの頭の中に浮かんできます。その「疑問」を解決する楽しさを子どもたちが実感できる授業をしようと単元の構成を考え、1時間の授業の中での構成を考えて授業を作りました。あらかじめ子どもたちの反応を予想して授業の構成を考えていくわけですが、授業者の期待というか予想以上の意見が出てきたりして、こちらもわくわくすることがありました。

## きゅうりができるまで

1本の木からきゅうりが  
100～150本とれます。



### ★「論理的な思考力・判断力」から「表現力」としてのコミュニケーション能力へ

「スーパーマーケットの野菜売り場では、いつも同じ野菜が売っていますか」という問いに、多くの子どもたちが「野菜には旬があり、たくさんとれておいしい時期ととれない時期がある」とお店の見学で教えてもらったことを答えていました。でも、ある子は「欲しい野菜が買いに行った時になかったら困ることがあるから、いつもあってほしい野菜もある」「夕食でカレーライスを作るときにニンジンがなかったら困るから」とみんなにわかりやすい例をあげて発表しました。すると、周りに「そうだなあ」という声が増えていきました。

これが表現力としてのコミュニケーション能力なんだなと思いました。この子は、「野菜売り場においてある野菜は時期によってちがうと思う」という側の意見でしたが、先生に「いつも同じのが売ってるという意見の人」と言われて、「でも、いつも売ってないと困る野菜もあるなあ・・・」と「頭の中の論理的な思考」が働かだしていたんだと思いました。そして、この意見は正しいと判断して自分の考えたことを、しかもとてもわかりやすい例を出して表現することができたんだと思いました。

### ★「知っていること、できることをどう使うか」

あるクラスで、「台風の被害で、売っている野菜が少ないことがある」という意見が出たとき、「そういう時は、台風の被害がなかったところの野菜が入ってくる」という意見が出ました。複数の産地からとどいたトマトがあったことをその子は知っていました。

また、北中さんのきゅうりは近くの店ではあまり売っていません。「なぜ、近くの店で売っていないのか」「どこへ売られているのか」という疑問が出てきた時、子どもたちの思考は活性化し、真剣に課題に向き合う姿が見られました。「直売所かな」「近くの店に売るのが、便利で新鮮なのになぜ?」「高級だからだ」「別の店なら売っているのでは」とたくさんの意見が出ました。そして、あるクラスでは「いろんな県の野菜やくだものが野洲の店で売っていたように、北中さんのきゅうりはよその県で売っている」という意見が出てきました。「お店の仕事」で知ったことを使って考えていました。